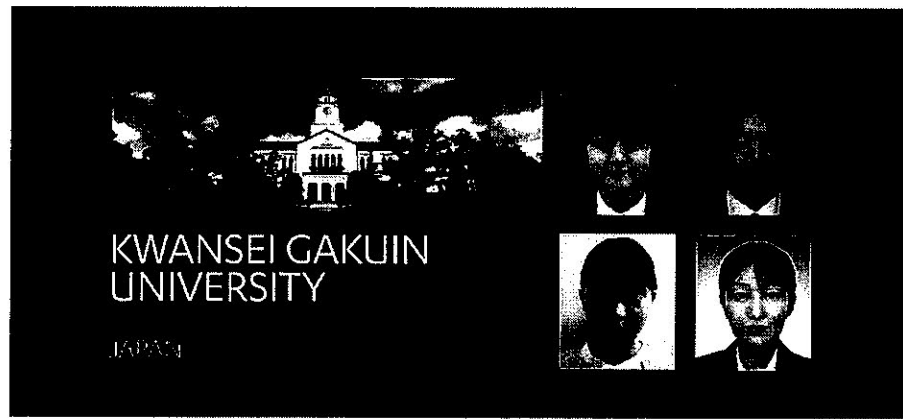


法政学会学生特別活動奨励金 活動報告書

(提出日 2025 年 9 月 30 日)

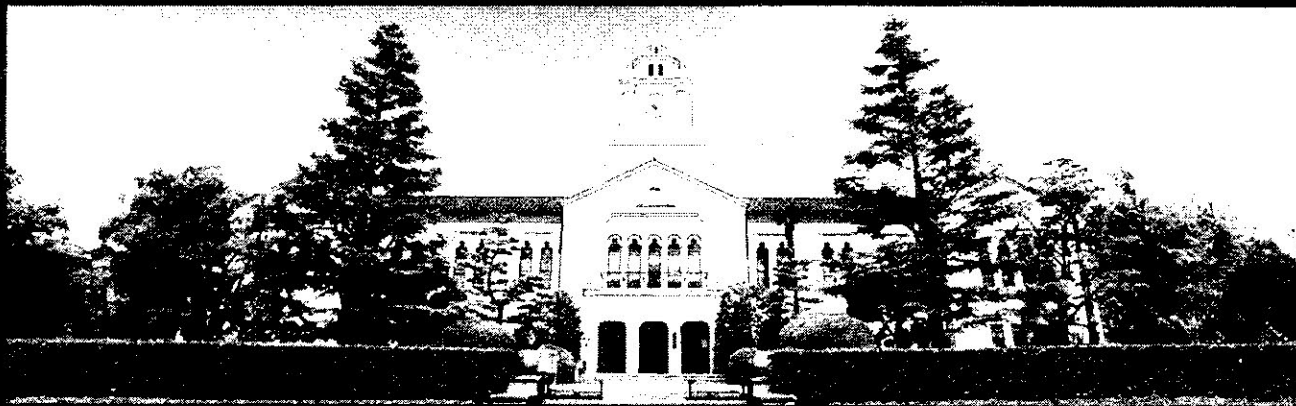
申請グループ名 (個人申請の場合は不要)	2025 年国際模擬調停大会参加チーム		
申請者 または グループ代表者			
	フリガナ 氏 名	カメイ マリハ 亀井 万里羽	
	連絡先	携帯	
		e-mail	
活動内容報告	*活動実績を証明する資料を別途添付の上、詳細に説明してください。 本年度、関西学院大学法学部・商学部混成チームは、2025 年 8 月 29 日から 31 日にかけて開催された第 9 回アジア太平洋商事調停大会 (Asia-Pacific Commercial Mediation Competition, APCMC) に参加しました。本大会はオーストラリア紛争処理センターの主催によりオンラインで実施され、オーストラリア、ニュージーランド、インド、シンガポール、韓国などアジア太平洋地域の約 20 大学が参加する大規模な国際模擬調停大会です。関学チームは、法学部学生 2 名と商学部学生 2 名の計 4 名で構成され、3 ラウンドの予選に出場しました。 本大会に向けて、5 月以降より商学部の高森桃太郎准教授のご指導のもと、調停の基本的知識や技法、採点基準を学習しました。さらに、法学部非常勤講師の小倉隆先生から、企業法務の実務経験を踏まえた国際商事調停に関する特別講義を受講し、法的知識と実務感覚を兼ね備えた準備を進めました。チーム内では商学部生が依頼人役、法学部生が Legal Counsel 役を担い、留学生との模擬セッションを繰り返しました。本番に向けて、留学生との合同授業を 3 回実施し、実践的な交渉力と戦略立案能力を磨きました。 大会本番では、予選の 3 ラウンドに出場しました。各ラウンドでは、高森先生、小倉先生にご指導いただいた内容を活用し、国際物品売買契約に関する国際規則 (CISG) や契約条項に触れるなどして、法的責任を否定しつつも協調的な解決を図りました。また、相手方の立場を尊重しつつ自らの主張を展開し、双方が利益を得られる合意形成を目指しました。判定者からは、模擬調停企画書の完成度や、単なる対立の解消にとどまらない持続的なビジネス関係構築を視野に入れた解決策の提案が高く評価されました。 今回の活動を通じて、英語による交渉力、即興的なコミュニケーション力、そして国際取引に関する法的知識を実践的に応用する力を大きく伸ばすことができました。特に、相手方の主張を受け止めつつ自らの立場を維持し、最終的に双方が納得できる解決策を導く経験は、今後の学習や将来のキャリアに大いに活かすことができると考えます。次年度以降の後輩学生にも本大会への参加を継続的に引き継ぐことで、本学法学部の国際的な学びの場をさらに拡充していきたいと思っています。		

(活動の様子)



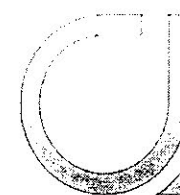
(留学生合同練習の様子 高森ゼミ Instagram 投稿 6月12日、6月19日)
<https://www.instagram.com/takamoriseminar/>

【裏面使用可】



KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

JAPAN



ASIA-PACIFIC
COMPETITION

2025